

京師みやこより来贈おこする歌うた一首 并あはせて短歌たんか

四二二〇番

海神わたつみの 神かみの命みことの みくしげに 貯たくはひ置おきて  
齋いつくとふ 玉たまにまさりて 思おもへりし 我あが子こには  
あれど うつせみの 世よの理ことわりと ますらをの 引ひ  
きのまにまに しなざかる 越路こしぢをさして 延はふ  
つたの 別わかれにしより 沖おきつ波なみ 撓とをむ眉まよひ引き  
大舟おほぶねの ゆくらゆくらに 面影おもかげに もとな見みえつ  
つ かく恋こひば 老おい付つく我あが身み けだし堪あへむ  
かも

反歌はんか一首

四二二一番

かくばかり 恋こひしくしあらば まそ鏡かがみ 見みぬ  
日時ひときなく あらましものを